

長編ドキュメンタリー映画／SD／カラー／83分

©2011／製作・著作・配給：マザーバード

<https://www.motherbird.net/ikiru>



撮影・プロデューサー：貞末麻哉子

構成・編集：洪 福貴

制作補：梨木かおり

ナレーター：長谷川初範



静岡県富士市にある生活介護事業所でら〜との取り組みを5年にわたって記録したドキュメンタリー映画

普通に生きる

～自立をめざして～



作品公式サイト→



【制作（特別協力）】ナレーター：長谷川初範／音楽：木 霊／整音・MA：中山隆匡・成ヶ澤 玲／カラリスト：稲川実希・太田義則／ポストプロダクション：CSW (Cinema Sound Works)
【制作】撮影・プロデューサー：貞末麻哉子／構成・編集：洪 福貴／制作補：梨木かおり／製作・著作・配給：マザーバード／制作協力：mediaEDIX 【撮影協力】社会福祉法人インクルふじ
生活介護事業所 でら〜と 利用者と保護者の皆さん／生活介護事業所 らぼ〜と 利用者と保護者の皆さん／NPO法人くじら 陽だまりの家／静岡県立富士特別支援学校／富士市／富士宮市

普通に生きる ~自立をめざして~

【イントロダクション】

静岡県富士市にある生活介護事業所では、『どんなに重い障がいがあっても、本人もその家族も、地域の中で普通に生きていく社会をめざす』という理念のもとに親たちの努力で、ゼロから立ち上げた重症心身障害児者のための通所施設である。

ここには医療的ケアを必要とする利用者も多く、生活支援員の他に看護師も常勤し、毎日、それぞれの障害や個性に合わせたプログラムで日中活動を支援している。利用者は多くの人や地域との関わりの中で、社会性を身につけ、誰からも介護を受けられるよう成長してゆく。そして親たちも、法制度の改革の波に揉まれつつも行政に働きかけ、自分たちのニーズにあった制度や施設づくりを行い続けてきた。

いずれは、親も子もそれぞれの人生を明るく送れる地域社会づくりを目指して『福祉の受け手から担い手となる』発想が、親たちの新しい未来を切り拓いてきた。

自分たちが、福祉の受け手から担い手になれるといいなと思った

市役所がやってくれと思うんじゃないの？

親たちは制度の壁を乗り越えて新しいサービスを生み出していた



推薦のこぼれ

神奈川大学特別招聘教授 浅野史郎

障害者のこと、特に、重症心身障害者のことを知らない人たちに、この映画を見ていただきたい。「障害者はかわいそう」、「障害者は家族を不幸にする」、「障害者は何もできない」、「重度の障害者に自立なんてありえない」といった思い込みがいっぺんに変わってしまうだろう。また、地域の中で支援の施設が欲しいと思いがちだが、実現の困難さから、あきらめていた障害者の家族にも親でもらいたい。「やればできる」、大きな勇気をもらうはずである。

日常生活のあらゆる面で介助を必要とし、言葉もなく意思表示がむずかしい重症心身障害者が、毎日「でら〜と」に通ってきても、活動の花を咲かせる。仲間や施設職員との関わりの中で示す表情豊かな反応をこの映画に映し出す。密着するカメラは、楽しいことをやっている彼らの表情を逃さない。これが普通の生活である。これが幸せの形である。見終わって、いろいろなことを感じる。こんな重い障害を持った人たちが、幸せになってよかったね、というこだけだけ終わらない。この映画は、さらにその先の根源の問題、人間とは何か、人生とは、生きるとは、幸せとは何か、地域の力とは何か、家族とは何か、障害者問題を越えて、もっともっと大事なことを教えてくれる。教えてくれるのは、ものも言えない、自分では動けない身体の人々の彼ら重症心身障害者が地域で生きる姿である。そこまで我々を導いてくれる、この映画に乾杯。

社会福祉法人訪問の家事 日浦美智江

かつて障害のある人たちは世間から隔され、座敷牢と呼ばれる部屋に閉じ込められていたのが「普通」でした。一九八六年、日本で初めての重症心身障害児者の通所施設「朋」が生まれ、重い障害のある人たちの自己実現の舞台ができた当時は、親はわが子の自己実現に自分の自己実現を重ね、親と子は一心同体というのが一般的には「普通」だったと思います。当時の母親たちは四十代、五十代です。子どもの自己実現と自分自身の自己実現に胸を張って取り組んでいます。親と子は一心同体ではなく二人の別々の人間であることが「普通」なのです。例えば我が子に重い障害があっても、親自身の自己実現があるのが「普通」なのです。親と子、それぞれ自立です。子どもの幸せは親の幸せであり、親の幸せは子どもの幸せです。そこにどんな条件が加わろうとそれが「普通に生きる」ことなのだ、それを、見事に見せてくれたでら〜とのみなさんに、心からの敬意と拍手を送ります。

日本福祉大学学長 原田正樹

「自立」とは本人の内発的な生きたいという叫びであって、国家が「自立支援」を促すものではないと思う。制度は「生存を保障する」ものであって、「生き方を管理する」ものではない。こう書くことと難しい理屈のように受け止められるかも知れないが、映画に登場することと私たちの「笑顔」、親たちの「涙」、そして普通に生きようとするそれぞれの「希望」、そのことを物語ってくれている。そして、この映画が本当にすごいことは、こうしたメッセージを自然に優しく描いていることだ。

■生活介護事業所「でら〜と・らぼ〜と」社会福祉法人インクルふじとは？

富士市のでら〜と(2004年開所)と、富士宮市のらぼ〜と(2009年開所)は、富士市・富士宮市で暮らす重症心身障害児(者)の親たちの有志で組織した設立準備会が、様々な活動を続けながら、地道な活動の末に設立した社会福祉法人インクルふじが立ち上げた障害者の地域生活・在宅サービスの拠点である。

インクルふじのホームページ <http://incle.jp>

この作品の著作・配給・上映・ご購入に関するお問合せは ■ マザーバード ■

TEL : 03-6913-5591 / e-mail : office@motherbird.net

普通に生きる

公式ホームページ
<https://www.motherbird.net/ik>



■「普通に生きる~自立をめざして~」のその後、8年にわたって続編「普通に死ぬ~いのちの自立~」が、2020年に完成しました。

この2作品を通して、どんなに重い障害や病気があっても、ご本人やその家族が最期まで、地域の中で笑顔で暮らしてゆける社会をめざせるよう呼びかけてゆきたいと思います。

みなさまの地域でぜひ、上映会を開きませんか。

「普通に死ぬ」のホームページ
<https://www.motherbird.net/ikiru2>



令和7年度

障がい児(者)等啓発事業「普通に生きる ~自立をめざして~」映画上映会

日時：2025年 **11月22日** 土

会場：サーラ孺恋 大ホール

主催：西部相談支援センター／お問合せ：0279-96-1681 (西部相談支援センター)

共催：手をつなぐ育成会(吾妻郡・草津町・孺恋村・長野原町)／後援：吾妻地域自立支援協議会・孺恋村社会福祉協議会

① 10:30~(開場10:00) / ② 13:30~(開場13:00)

群馬県吾妻郡孺恋村三原679-3
駐車場あり
(JR吾妻線 万座鹿沢口駅徒歩12分)

入場無料・予約不要